



2026年9月2日掲載

意外に普通のFRB議長、ウォーシュ氏

注目された「ジャクソンホール会議」での米連邦準備制度理事会（FRB）のウォーシュ議長の講演ですが、その内容は意外に「普通のFRB議長」的でした。

事前の予想では、今後の政策についてのヒントを出すことはないだろうとみられていましたが、ウォーシュ議長は「雇用は安定しており、インフレが高止まりするなら利上げも辞さない」との趣旨の発言をしたので、市場では9月利上げ確率が上昇したとの見方が広がりました。

実は、この発言は先日のベッセント米財務長官による国債買い戻し拡大と逆方向です。米財務省は長期金利の上昇を抑えようとしていますが、ウォーシュ議長は必要であれば追加利上げもあり得るとの姿勢を示しました。

もっとも、この矛盾は見かけほど大きくありません。

財務省が気にしているのは足元の債券市場の需給であり、FRBが気にしているのはインフレの持続性です。財務省は時間を稼ぎたいのであり、最終的な金利の方向を決めるのは今後のインフレ率となるでしょう。

ドル円について、ウォーシュ議長の発言は米金利高を通じてどちらかと言えばドル高を支える内容でした。市場には為替介入への警戒感が残っているものの、米国のインフレの落ち着きと日銀利上げによる円高を期待する向きと、米国の一時的利上げによるドル高を意識する向きの綱引きが続いています。

結局のところ、今後の焦点は雇用よりもインフレです。目先の金利政策は、利上げか見送りか五分五分と見られていますが、仮に利上げがあってもその後インフレ率は低下し、利下げ時期を探る展開になるでしょう。（アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹）

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》